

カウンセリングルームだより

Vol. 41 (2013年11月発行)



卵子を凍結保存しますか？！

将来の不妊に備えて卵子を凍結することが、健康な独身女性に認められそうです。

(これまでは癌などの放射線治療で卵子が傷つくおそれのある女性に限り卵子凍結が認められていました。)

それを望む人の声は？

技術の進歩で出産時期を選べる社会とは？

30年前の全国の平均初婚年齢は、新郎28歳、新婦25歳でした。

それが現在では、新郎30.8歳、新婦29.2歳になりました。

大都市圏では更に晩婚化が進んでおり、近いうちには「三十路結婚」の時代になって行くでしょう。

晩婚化に伴い、晩産化も進み、加齢で妊娠しにくくなる「卵子の老化」への注目が高まって来ています。

独身女性を対象に卵子や卵巣を保存する、卵子バンク事業会社も出て来ました。

代表者は、「女性が自分のリスクで卵子凍結をして何がいけないのでしょうか？」「妊娠適齢期に相手がない人が一時避難的に保管し、後で使う。キャリアの問題など、産みたい時に産めない社会がおかしいのであり、卵子凍結をあおっているではありません。」とコメントしています。

そして目標は更に「卵子の若返り」で、老化した卵子の細胞質を、若い女性の細胞質と交換する技術がもう少しでヒトへの応用も可能になりそうだと言っています。

(2013.11.14 朝日新聞より)

日本生殖医学会が、健康な未婚女性が将来の妊娠に備えて卵子を凍結保存しておくことを認めるガイドラインをまとめました。

(ガイドラインの一部)

＊40歳以上での採卵は推奨しない。45歳以上での凍結卵子の使用は推奨しない。

＊採卵や凍結卵子を使った不妊治療の方法や危険性、妊娠の可能性、費用などを十分説明し、本人の同意を得る。

＊本人が生殖可能な年齢を過ぎた場合は通知の上で廃棄できる。

＊凍結卵子を本人以外が使うことはできない。

卵子凍結により40代や50代の女性が子どもを産み、育てることが可能になったとき、どんな現象が起きてくるのか？

今更面倒な恋愛や結婚にはこだわらず、精子バンクで精子を買ってシングルマザーになる。そうやって性的自己実現を果たす女性が増えるのではないかと心理学者のコメントもあります。

高齢妊娠、高齢出産の母子共に高まるリスク、そして子育ての見通しもよく踏まえて判断しなければなりません。又、若い卵子を凍結保存しておけば高齢になっても誰でも出産出来るといった誤った認識が広がってしまうことが懸念されます。

生殖技術の進歩は、女性の生き方の問題として大きな影響と課題を投げかけています。



カウンセリングは毎週土曜日に実施しています。自分らしい治療を選択するために、情報提供も含めてご活用ください。